

Discovering the Sky

空の発見



2024年 9・14(土) - 11・10(日)
*会期中、一部展示替えあり
前期 9・14(土) - 10・14(月祝) 後期 10・16(水) - 11・10(日)

開館時間：午前10時 - 午後6時(入館は午後5時30分まで) *毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休館日：月曜日(9月16日、9月23日、10月14日、11月4日)は開館、9月17日(火)、9月24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)

入館料：一般1,000円(800円)、大学生800円(640円)、高校生・60歳以上500円(400円)、小中学生1,000円(800円)

* ()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝日は小中学生無料 *毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料

リピーター割引 観覧日翌日以降の本展会期中、有料の入館券の半券と引き換えに、通観料金から2割引まで(入館できます)。なお、1枚の入館券につき、1回まで有効となります。

主催：渋谷区立松濤美術館 *会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。最新情報は、当館ホームページ等でご確認ください。

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL. 03-3465-9421 <https://shoto-museum.jp>

香月泰男 《青の太陽》 1969年 油彩、方解末、木炭・カンヴァス 山口県立美術館



渋谷区立 松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

私たちが毎日見ている「空」。現代では誰もが共通のイメージを描けるあたりまえの存在に思われます。ところが日本の美術のなかでは、近世になるまで「空」を現実に描こうとする意識は希薄でした。障屏画では黄金地や金雲などがこの空間を占め、水墨画では余白のような位置づけである時もあります。もともと「空」(そら)は(くう)とも読めるように、神の世界である「天」でも、人間のいる「地」でもなく、曖昧な場所でした。近世になると、西洋絵画などの影響を受け、洋風画や泥絵、浮世絵などに青空が広がります。なかでも江戸時代、たびたび青空を描いた画家の司馬江漢(1747-1818年)が、蘭学から地動説を学び、科学的な空間認識を持っていたといは「空」への意識の変化を考えるうえで示唆的です。一方で、浮世絵のなかの典型的な空の表現「文字ばかり」のように、その表現は形式的、概念的なものであることもありました。

明治以降、本格的な西洋画教育や、科学的な気象観測の導入をうけ、刻々と変化する雲や陽光を写しとろうとする画家たちが登場します。ところが次世代には、表現主義やシュールレアリスムなどの新潮流の影響のなか、自らの心象をこの空間に托すように多様な個性的な「空」を描く画家たちが続々登場します。

そもそも、私たちの視点はふだん地上に向けられ、絵の中で「空」が主役となることは稀です。地上で震災や戦災が起こり、人間の活動がなまじわられたとき、廃墟に広がる空、戦地で見上げた空などが、突如重い存在感を持ち出します。目の前にありつつも意識されなかった空間が大きく浮かびあがる様子は、認知の不確かさを物語ります。現代、かつては従属的であった「空」を中心に据えることで、表現に活路を見出すアーティストたちが現れました。見えているけど、見えていない。本展は、こうした「空」の表現の変遷を通じて、そこに映し出される私たちの意識の揺らぎを浮かびあがらせようとするものです。



1 春木南演 《富士曼荼羅図》 江戸時代 絹本着色・軸 山梨県立博物館 [前期展示]
 2 ジョン・コンスタブル 《デダムの谷》 1805-17年頃 油彩・カンヴァス 栃木県立美術館
 3 岸田綱生 《城外夏景》 1921年 油彩・カンヴァス 茨城県近代美術館
 4 高鉄五郎 《雲のある自画像》 1912年 油彩・カンヴァス (公財)大原芸術財団 大原美術館
 5 高橋由一 《中洲月夜の図》 1878年 油彩・カンヴァス 宇都宮美術館
 6 ホンマタカシ 《[TOKYO SUBURBIA 東京郊外] 幕張ベイタウン、千葉県》 1995-98年 発色現像方式印画 東京都現代美術館

① アーティスト・トーク1「無有に遊ぶ」

日時:9月28日(土) 午後3時—(約1時間30分)
 講師:阪本トクロウ氏(画家、本展出品作家) 聞き手:当館学芸員
 場所:地下2階ホール
 *無料(要入館料) *定員60名(要事前申込、抽選制)

② アーティスト・トーク2「空をのむ」

日時:10月12日(土) 午後3時—(約1時間30分)
 講師:AKI INOMATA氏(現代美術家、本展出品作家)
 場所:地下2階ホール
 *無料(要入館料) *定員60名(要事前申込、抽選制)

③ 特別講座「空の発見 見えているけど、見えていないものはどのように描かれてきたか」

日時:10月26日(土) 午後3時—(約1時間)
 講師:平泉千枝(本展担当学芸員)
 場所:地下2階ホール
 *無料(要入館料) *定員60名(要事前申込、抽選制)

◎ イベント申込方法

往復はがきまたは下記の申込フォームにて承ります。1通につき1名のみお申込み可能です。応募者多数の場合は抽選となります。

【往復はがき】〒・住所・氏名(ふりがな)・日中連絡のつく電話番号、参加希望のイベント名をご記入の上、空展イベント係まで。

【申込フォーム】

当館ホームページ上の①~④各イベントフォームからお申込みください。
 *締切(いずれも必着) ①アーティスト・トーク1:9月17日(火)
 ②アーティスト・トーク2:9月30日(月) ③特別講座:10月13日(日)
 *迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に当館からのメール「@shoto-museum.jp」が受信できるようにドメイン設定をお願いいたします。
 締切日後4日間以内に抽選結果通知が届かない場合はお問い合わせください。

○ 学芸員によるギャラリー・トーク

9月20日(金)、10月5日(土)、10月20日(日) 各日午後2時—(約40分)
 *無料(要入館料) *事前申込の必要はありません

○ フライデー・ナイト館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。
 9月20日(金)、27日(金)、10月4日(金)、11日(金)、18日(金)、25日(金)、
 11月1日(金)、8日(金) 各日午後6時—(約40分)
 *各回定員20名 *無料(要入館料)
 *事前申込の必要はありません

*会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。最新情報は、当館ホームページ等でご確認ください

次回展覧会のご案内

須田悦弘
 2024年11月30日(土) — 2025年2月2日(日)



渋谷区立 松濤美術館
 THE SHOTO MUSEUM OF ART



アクセス:京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分、
 JR・東京メトロ・東急池袋線渋谷駅下車徒歩15分
 〒150-0046
 東京都渋谷区松濤2-14-14
 TEL:03-3465-9421
<https://shoto-museum.jp>